



個人トータル表

男子		令和6年10月26日 13:00 開始											
決勝		大和興産安佐北区スポーツセンター 0											
広島皆実	62	20	1st	14	◎ 広島県瀬戸内 (広島県)								
		18	2nd	16									
		9	3rd	27									
(広島県)		15	4th	13									
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
4	西本尚史	-	-	-	-	-	1	弘川詩童	-	-	-	-	-
*5	平田貴一	13	3	2	0	3	2	若林快晟	0	0	0	0	0
6	八木隆誠	-	-	-	-	-	*5	佐藤雅	12	0	5	2	1
7	松本朔太郎	11	3	1	0	1	7	伊藤雄飛	-	-	-	-	-
*8	松井颯之輔	4	0	1	2	4	11	川越遼大	-	-	-	-	-
*9	平田成	16	2	5	0	1	12	長山純斗	0	0	0	0	1
10	渡邊龍	-	-	-	-	-	14	隋行太一	-	-	-	-	-
*11	磯本真之介	5	1	1	0	2	*19	坪川喜晴	4	0	2	0	3
*12	坂西優友	0	0	0	0	2	21	山中篤	5	0	2	1	0
13	村上礼	13	1	5	0	0	23	室田真秀	0	0	0	0	0
14	竹本光流	-	-	-	-	-	*30	澤田大陸	11	3	1	0	0
15	藤原佑貴	0	0	0	0	2	*34	三次桜侍	19	3	5	0	1
16	松本蓮太郎	0	0	0	0	0	*37	藤川大夢	16	1	4	5	1
17	速水恒徳	-	-	-	-	-	41	胡濱隼征	3	1	0	0	1
18	藤本晴己	-	-	-	-	-	51	金本尚大	-	-	-	-	-
コーチ	横田学					0	コーチ	川西英昭					0
Aコーチ	佐々井雄大						Aコーチ	山崎翔太郎					
合計		62	10	15	2	15	合計		70	8	19	8	8
主審: 山住泰光													
副審: 森原隆													
副審: 熊本裕一朗													

〔戦評〕

県立広島皆実VS瀬戸内

スタート

県立広島皆実#5#8#9#11#12

瀬戸内#5#19#30#34#37

2024年広島県高等学校秋季バスケットボール大会男子決勝戦は4年連続、広島皆実高校対瀬戸内高校の対戦となった。

1Q

両チームともにマンツーマンディフェンスでスタート。瀬戸内は#34、#19の連続得点でリズムを掴む、一方広島皆実開始5分で2得点と緊張からなかなかペースを掴むことができない。残り5分切ったところで広島皆実#11、#5の連続3ポイントで追いつくことに成功する。さらに広島皆実#9が速攻からのレイアップで逆転に成功する。瀬戸内も#5の合わせからのゴール下シュートで応戦するが、リバウンドからの速攻と終了間際に広島皆実#7がブザーと同時に超ロングシュートを決め、広島皆実が20-14と6点リードして1Qを終了する。

2Q

1Q同様に広島皆実が徹底されたディフェンスリバウンドからのランニングプレーで主導権を握る。広島皆実#9の連続得点が決まり、13点差開いたところで瀬戸内がタイムアウト。タイムアウト後も広島皆実#9は交代する選手が豊富な運動量でプレーし、瀬戸内に得点を与えない。瀬戸内も#37の個人技で応戦するもなかなか点差が縮まらず、残り4:51で瀬戸内前半2度目のタイムアウト。タイムアウト後、瀬戸内は2-2-1オールコートプレスで広島皆実のミス誘発し#34、#37、#30の3連続3ポイントを決める。広島皆実も#7の3ポイント、#9のゴール下シュートを決め、互いに主導権を渡さない。瀬戸内は終盤の連続3ポイントで点差を一桁まで縮め38-30、広島皆実が8点リードで前半を折り返す。

3Q

前半同様、互いにマンツーマンでスタート。開始3分で瀬戸内は#34、#37の連続得点で点差を一気に3点差まで縮め広島皆実にプレッシャーをかける。さらに瀬戸内の勢いは止まらず#41の3ポイントで同点、#5の合わせのシュートで逆転に成功する。広島皆実も#7の3ポイント、ミドルシュートが決まるが、瀬戸内#30の3ポイントが決まり瀬戸内#8点リードを奪ったところで、たまたま広島皆実がタイムアウト。タイムアウト後、広島皆実#8のリバウンドシュートが決まるが、瀬戸内はピックアップアンドロールからのオフenseが効果的に決まり47-57の瀬戸内10点リードで3Qを終了する。

4Q

10点リードされている広島皆実#5の連続3ポイント、#13の3ポイントで残り6分で3点差まで縮める。それでも瀬戸内は#34、#30の3ポイントで9点差まで押し返し主導権を渡さない。さらに#21のピックアップアンドロールからのレイアップがバスケットカウントとなり、残り1:44で瀬戸内10点リードとなったところで、広島皆実が後半2回目のタイムアウト。その後の広島皆実の必死の猛攻を振り切った瀬戸内が、62-70で勝利した。

広島皆実、夏の広島県を制した王者として高い運動量を活かした速いリズムからのバスケットを展開し、最後まで見応えのある好ゲームを繰り広げてくれたのは見事であった。

瀬戸内は前半苦しい展開が続いたが、3Q終盤でリードを奪い返してからは一度もリードを許さず、令和元年以来となる2度目の優勝を果たした。

瀬戸内には、広島県代表として持ち味の攻撃力を武器にウインターカップでの活躍に期待したい。